PM-A900

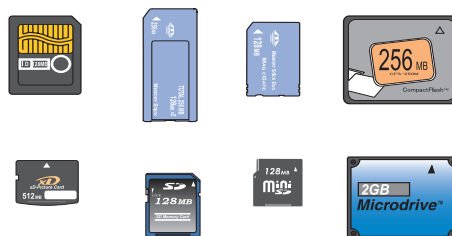
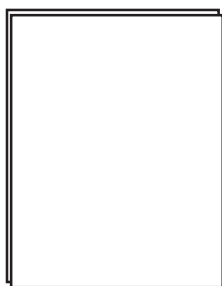
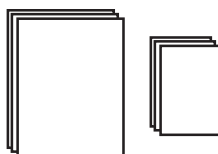
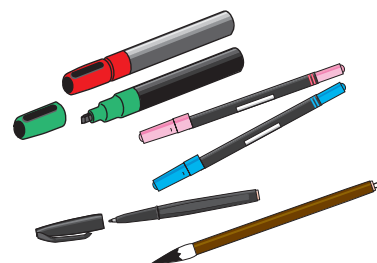
EPSON

NPD1241-00

手書き合成とは？

パソコンを使わずに、手書きした文字やイラストと、写真を合成して印刷する機能です。
レイアウトもアイデアも自由自在！ すてきな年賀状やグリーティングカードなどを、簡単につくることができます。

用意するもの

PM-A900 本体

合成したい写真の入ったメモリカード（いずれか一枚）
（※以降、コンパクトフラッシュカードの場合を例にご説明します。）

A4 普通紙
（手書き合成シート用）

印刷用紙
（ハガキまたはＬ判写真用紙）

ペンなどの筆記用具

文字や絵は、かすれにくい筆記用具を使用してください。ボールペンやシャープペンシルなどによる細い文字、クレヨンや色鉛筆などによるかすれた文字は、正常に合成されない場合があります。

手書き合成にチャレンジ！

1 デジタルカメラで写真を撮ります。

2 メモリカードを PM-A900 にセットして、好きな写真を選びます。

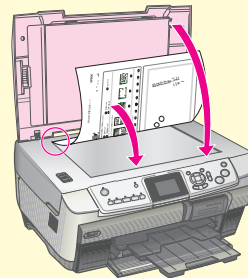
☞本書4～5ページ「①手書き合成シートの印刷」

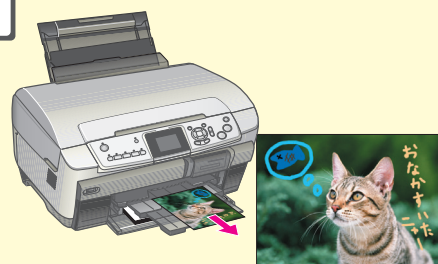
3 A4 普通紙に手書き合成シートを印刷します。

☞本書4～5ページ「①手書き合成シートの印刷」

4 手書き合成シートに文字やイラストを書き込みます。

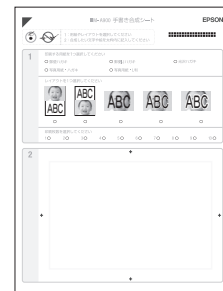
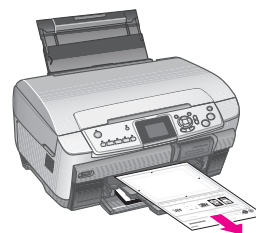
☞本書６ページ「②手書き合成シートに記入」

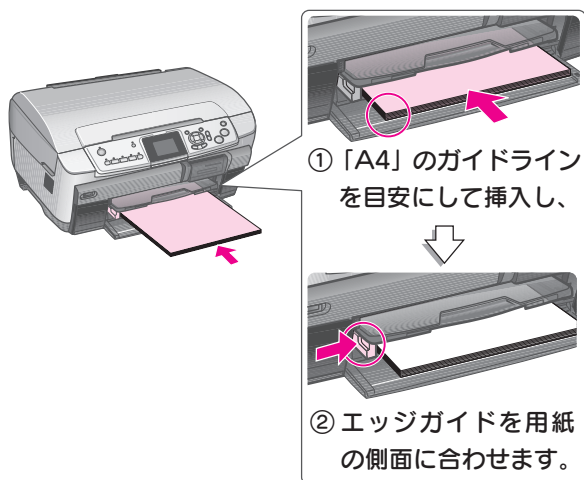
5 シートをセットして読み込みます。

☞本書８ページ「③手書き合成シートをスキャンして合成写真プリント」

6 合成写真を印刷します。

☞本書８ページ「③手書き合成シートをスキャンして合成写真プリント」

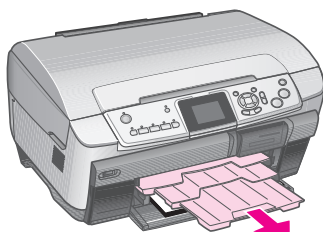
できあがり！！

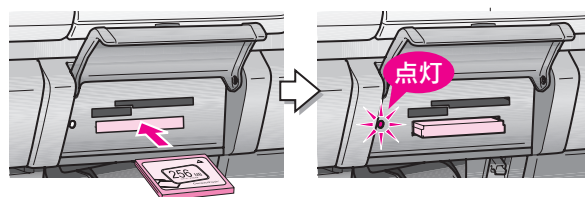
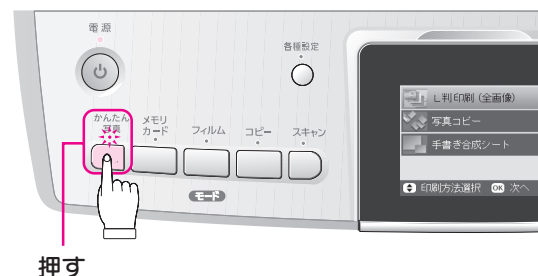
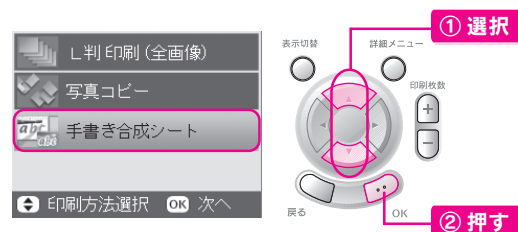
① 手書き合成シートの印刷

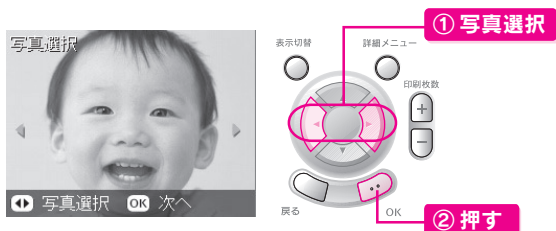
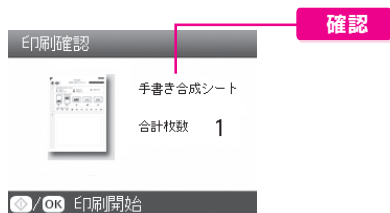
A4 普通紙に手書き合成シートを印刷します。

1 電源をオンにします。

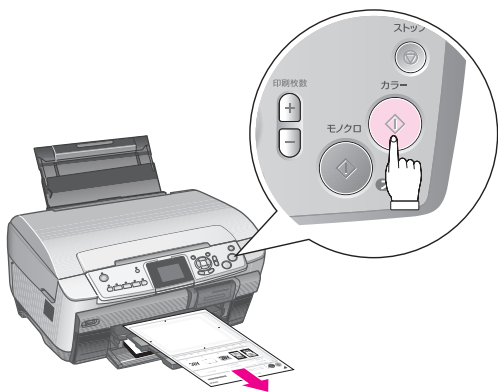
2 手書き合成シートを印刷するためのA4サイズの普通紙を、前面オートシートフィーダにセットします。

補足情報

手書き合成シートに使用する用紙は、両面に汚れ(異物)のないことを確認してください。合成時に用紙の汚れ(異物)が手書きデータとして認識される場合があります。

3 排紙トレイを引き出します。

4 メモリカードをセットします。

コンパクトフラッシュカードの場合を例にご説明します。

5 かんたん写真 ボタンを押して、かんたん写真モードにします。

6 ［手書き合成シート］を選択して、OK ボタンを押します。

7 ［写真を選んで手書き合成シートを印刷する］を選択して、OKボタンを押します。

8 合成したい写真を選択して、OKボタンを押します。

9 画面を確認します。

10 カラーボタンを押して、印刷を実行します。

右図のような手書き合成シートが印刷されます。

注意 手書き合成シートを印刷した後は、合成した写真のプリントが終了するまで、メモリカードの内容を変更したり、別のメモリカードに差し替えたりしないでください。

これが手書き合成シートです！

ここが、文字やイラストを書くエリアです。

② 手書き合成シートに記入

印刷されたシートに、印刷設定のマークを付け、
合成したい文字や絵などを書きます。

1 印刷する用紙を１つ選んで、マークを付けます。（◯を塗りつぶします。）

印刷する用紙	塗りつぶす箇所
郵便ハガキ（再生紙）	郵便ハガキ
郵便ハガキ（インクジェット紙）	郵便IJハガキ
スーパーファイン専用ハガキ	郵便IJハガキ
フォト･クオリティ･カード2	光沢ハガキ
写真用紙<絹目調>はがき	写真用紙 － ハガキ
写真用紙<光沢>L判	写真用紙 － L判
写真用紙<絹目調>L判	写真用紙 － L判

2 印刷するレイアウトを選んで、マークを付けます。（◯を塗りつぶします。）

レイアウトの説明

<下半分>
下半分に手書きの文字や絵など、上半分に写真が入ります。

<上半分>
上半分に手書きの文字や絵など、下半分に写真が入ります。

<ふち取り無し>
写真の上に、手書きの文字や絵などを重ねて合成します。

<細いふち取り付き>
手書きの文字や絵などに細いふち取りを付けて、写真に重ねて合成します。

<太いふち取り付き>
手書きの文字や絵などに太いふち取りを付けて、写真に重ねて合成します。

※写真の上に絵や細い文字を合成する場合は、太いふち取りが付くレイアウトをお勧めします。

3 印刷する枚数を選んで、マークを付けます。（◯を塗りつぶします。）

注意 マークは、HB などの濃い鉛筆か黒ペンで、しっかりと塗りつぶしてください。

正しい記入例 ●

悪い記入例

4 手書き合成シートの手書きエリアに、文字や絵などを書きます。

お気に入りのシールなどを貼ることもできます。

■M-A900 手書き合成シート　EPSON

1：用紙やレイアウトを選択してください
2：合成したい文字や絵を太枠内に記入してください

1　印刷する用紙を1つ選択してください
○ 郵便ハガキ　● 郵便IJハガキ　○ 光沢ハガキ
○ 写真用紙 - ハガキ　○ 写真用紙 - L判

レイアウトを1つ選択してください

印刷枚数を選択してください
1○ 2○ 3○ 4○ 5○ 6○ 7○ 8○ 9○ 10○

2

あけまして
おめでとう

レイアウトエリア（レイアウトされる範囲）

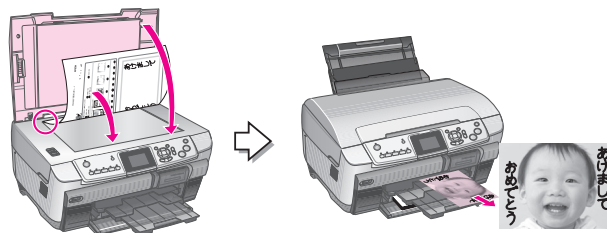
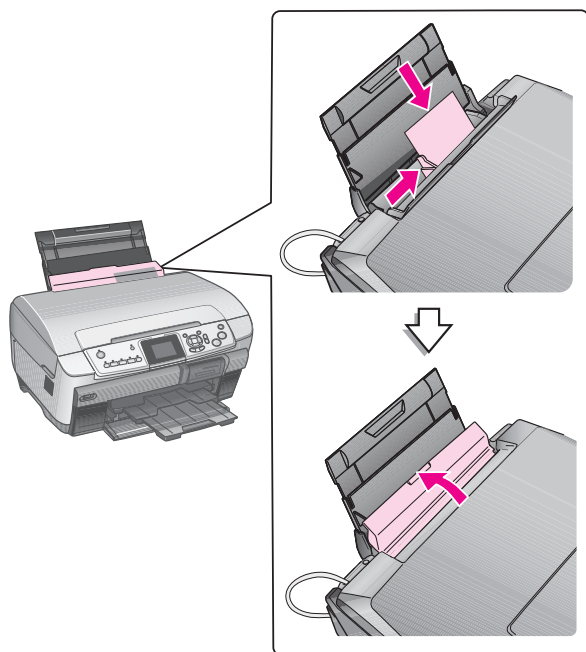
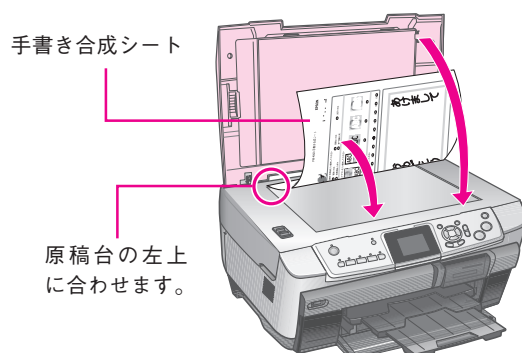
4箇所の十マークを結んだ範囲が、レイアウトエリアです。
レイアウトエリアは用紙のサイズではありません。
レイアウトのサンプル図で、それぞれ赤枠で囲んだ部分を表しています。

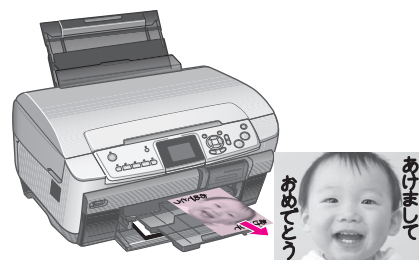
手書きエリア（手書きできる範囲）

この範囲の中に、字を書いたり絵を描いてください。シールなどを貼ることもできます。
この中に書いた内容は、選択したレイアウトの手書き部分のサイズに、自動的に拡大/縮小して合成されます。

この範囲は、書き込んでも読み込まれません。

注意　文字や絵は、かすれにくい筆記用具を使って、濃くはっきりと書いてください。
ボールペンやシャープペンシルなどによる細い文字、クレヨンや色鉛筆などによるかすれた文字は、正常に合成されない場合があります。

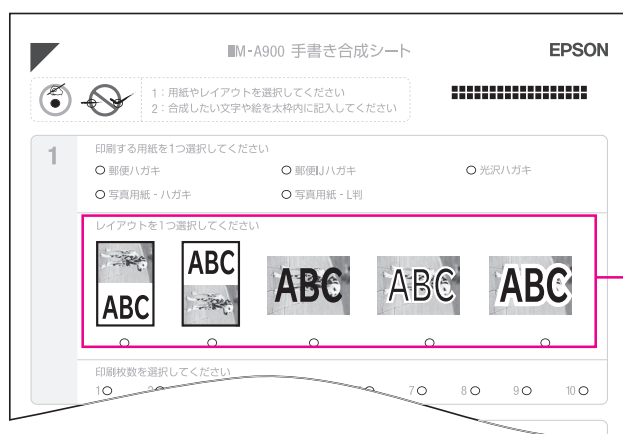
③ 手書き合成シートをスキャンして合成写真プリント

1 印刷する用紙を、背面のオートシートフィーダにセットします。

2 手書き合成シートを原稿台に図の向きでセットし、原稿カバーを閉じます。

3 ［手書き合成シートを読み込んでプリントする］を選択し、OK ボタンを押して印刷を実行します。

合成結果が印刷されます。

以上で、手書き合成シート印刷の手順説明は終了です。

こんなときは

ここでは、困ったときの対処方法や、知っておくと便利な情報などを記載しています。

縦長写真のときに、どちら向きに字や絵を書いたら良いか、分からない。

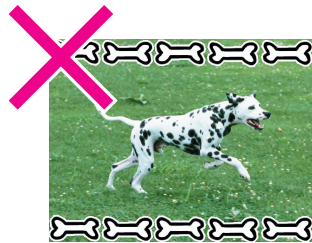
縦長写真を使う場合は、まず、手書き合成シートの中に印刷されるレイアウトサンプルの図をご確認ください。レイアウトサンプルの図には、実際に印刷する写真と、その向きが縮小表示されています。

この図で、写真の天地をご確認ください。
写真の天側がシートの右を向いている場合は、シートの右側を上にして、手書きエリアに文字や絵を書いてください。
写真の天側がシートの左を向いている場合は、シートの左側を上にして、手書きエリアに文字や絵を書いてください。

（例）

手書きエリアのフチまで書いたのに、写真のフチに印刷されない。（思ったよりも内側に入ってしまう。）

手書きエリアの枠線は、写真のフチを表しているわけではありません。
レイアウトの領域は＋マークを結んだ範囲になりますので、それよりも内側にある手書きエリアに書いた内容は、写真のフチよりも内側の方に印刷されます。

写真の周辺（フチ）に、文字やイラストを入れたい。

機能の仕様上、写真の周辺（フチ）まで手書きの内容を入れることはできません。

このように、周辺ぎりぎりに文字やイラストを入れることはできません。

手書きエリアの枠線ぎりぎりに書いた文字やイラストは、これぐらいの位置に入ります。

このように、写真のフチにかかるように文字やイラストを入れることはできません。

手書きエリアの枠線に沿って書いた文字やイラストは、これぐらいの位置に入ります。

レイアウトエリアいっぱいに書いたのに、周辺部分が消えて印刷されない。

レイアウトエリアと手書きエリアの間には、書いても認識されない領域があります。
書いた内容が欠けてしまわないようにするために、文字やイラストなどは、必ず手書きエリア内に書いてください。

文字や絵がかすれて、きれいに印刷されない。

手書きエリアの文字や絵は、書かれている文字や線の輪郭から、形や範囲が認識されます。
このため、線が細かったりかすれたりしていると、正しく認識されません。
文字や絵がかすれたり切れたりして、きれいに合成できないときは、太いペンや濃い色のペンなどを使用して、できるだけ太く、はっきりと書いて、もう一度印刷してみてください。

絵の一部が欠けてしまう。

「細いふち取り付き」のレイアウトや、「ふち取りなし」のレイアウトは、文字や線の部分のみ、または周囲ギリギリを切り抜くため、線が途切れたり離れたりしている絵には不向きです。絵を合成する場合は、周囲を大きめに切り抜く「太いふち取り付き」のレイアウトを選択することをお勧めします。
「太いふち取り付き」のレイアウトでも欠けてしまう場合は、絵を囲む（線をつなげる）ようにすると、全体を切り抜いて合成することができます。

破線部分がふち取られます。

用紙の汚れ（異物）が合成されてしまった。

修正液（修正シール）などで汚れを消して、もう一度印刷してみてください。

手書きの内容が等倍（100%）で印刷されない。

手書きエリアは、実際に印刷される領域の実寸を表示しているわけではありません。
書き込んだ内容は、用紙のサイズやレイアウト（全面 / 上半分 / 下半分）の領域に合わせて自動的に縮小されますので、等倍にはなりません。

文字や絵が、思い通りの位置に合成されない。

手書きエリアは、実際に印刷される領域の実寸を表示されているわけではありません。
また、書き込んだ内容は、用紙のサイズやレイアウト（全面 / 上半分 / 下半分）の領域に合わせて自動的に縮小されますので、手書き合成シート上での厳密な位置合わせは、困難です。
厳密に位置合わせをしたい場合は、鉛筆で下書きをして、試し印刷を何回か行って位置調整してください。

改訂履歴

Revision	改訂ページ	改訂内容	備考
NPD1241_00	全て	新規制定	